

特集
①

Global Monodzukuri Summit
世界ものづくりサミット
グローバル アライアンス フォーラム
～産学連携イニシアティブで創る大阪の未来～

世界ものづくりサミット

主催 世界ものづくりサミット実行委員会

< 開催結果概要 >

1. 名称

世界ものづくりサミット

会期：2009年2月9日(月)～2月10日(火)

会場：大阪市公館、大阪大学中之島センター、
堂島リバーフォーラム

構成内容：ラウンドテーブル、分科会、グロ
ーバルアライアンスフォーラム、展示ビジネスマ
ッチング

同時開催：大阪大学シンポジウム

開催趣旨：世界有数のものづくり関連の企業、
研究機関の集積地・関西の大企業及び中小
企業の経営者、有識者が内外より会し、より
豊かな地球社会の実現を目指して、これから
のものづくりのあり方について議論をすると同
時に国際会議及び要素技術のシンポジウム・
展示を実施する。

2. 主催：実行委員会

大阪大学、大阪市、(社)関西経済連合会、

(社)生産技術振興協会

3. 特別協賛：オリックス(株)、(株)日本総合研 究所

協賛：大阪商工会議所

協力：中之島まちみらい協議会、関西電力(株)

4. 後援：(社)関西経済同友会、朝日新聞大阪 本社、読売新聞大阪本社、産経新聞大阪 本社、毎日新聞大阪本社、日本経済新聞大 阪本社(順不同)



■ 世界ものづくりサミット分科会

日時：2月9日(月) 13:00～17:30

会場：大阪大学中之島センター

プログラム：初日はバイオプラスチック、ナノテク
ノロジー、ロボット工学をテーマに3つの分科会
に分かれてセミナーを開催した。

第1分科会 テーマ： グリーン・ナノ技術で環境
適合ものづくりへ

座長：川合知二(大阪大学産業科学研究所・教授)
大阪が強いナノテクものづくり技術を最大限に生か
し、今、世界の最大の問題である環境エネルギー問
題を解決する具体的な道筋を討論した。太陽電池、
CO₂削減法などの環境テクノロジー、ナノテクノロ
ジーを使う具体例を示し、行政の新エネルギー推進
の取り組みやグリーンエネルギー供給のありかたに
ついて理解を深めた。またそれを支えるデバイス製
作やそれに貢献できる基礎研究を幅広いパネラーで



ともに討論した。それらの未来型エネルギーを活用し、世界を目指して大阪が何ができるかを討議した。パネラーの顔ぶれ

1. 太陽エネルギー変換材料研究の現状と将来展望
大阪大学太陽エネルギー化学研究センター教授
松村道雄

2. 大阪府における新エネルギーの取組みについて
大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室

望月京司

3. 強磁場を用いた廃水処理・資源回収への可能性
大阪大学工学研究科環境・エネルギー工学専攻

西嶋茂宏

4. ソーラーシステムの戦略的推進について
シャープ株式会社ソーラーシステム次世代要素
技術開発センター第二開発室長

高本達也

第2分科会 脱石油・地球にやさしいバイオプラスチックへの期待

座長：小林昭雄、宇山浩（大阪大学大学院工学研究科・教授）

バイオ関連ものづくりに関する新しい潮流として、



石油を使わない・二酸化炭素を増やさないバイオプラスチックを取り上げた。カーボンニュートラルの材料として新しいバイオプラスチックとそれを支える製造技術を循環型社会構築の観点から議論した。地球の未来に向け、材料科学の観点から産学連携イニシアティブによるバイオプラスチックのグローバルな展開を大阪から提言した。

パネラーの顔ぶれ

1. バイオプラスチックの現状と将来展望

日本バイオプラスチック協会・顧問 猪股勲

2. 多用途が期待される新バイオプラスチック・トチュウゴムの生産開発

大阪大学大学院工学研究科・教授 小林昭雄

3. トチュウゴムを活用した新機能素材開発のための産学共同研究アライアンス構築

大阪大学・招聘准教授(日立造船) 中澤慶久

4. バイオテクノロジーの応用開発における問題点と新展開(バイオマスからの物質生産について)

関西化学機械製作、Bio-energy・代表取締役(大阪大学招聘教授) 野田秀夫

5. バイオプラスチックを支える複合化技術

三福工業・代表取締役 三井福次郎

第3分科会 ロボット・情報技術が切り拓く未来のものづくり

座長: 浅田稔、石黒浩(大阪大学大学院工学研究科・教授)

「ロボット・情報技術が切り拓く未来のものづくり」と称し、情報(I)・コミュニケーション(C)・ロボ

ット技術(RT)が融合したICRTによる、未来のブ
ロダクトについて討論した。ロボシティ・コア
(RoboCityCoRE: Robot City, Center of Rt Experi-
ments) 構想では、大阪梅田北地区に建設予定のナ
レッジキャピタルの中に実現する計画がある。

分科会では、RCC 構想に限定せず、人間と共生す
る未来の人工物のあり方について、研究所、大企業、
ベンチャーなどの研究者・開発者から、その思いを
語って頂いた。

パネラーの顔ぶれ

1. 環境情報構造化とコミュニケーション知能モジ
ュール

A T R 知能ロボティクス研究所

環境知能研究室室長

宮下敬宏

2. 異業種連携によるサービスロボット実用化への
取り組み

三菱重工業株式会社神戸造船所先端製品・

機械システム部

日浦亮太

3. 人間共生ロボット E M I E W の開発

(株)日立製作所機械研究所都市・ロボティク
スプロジェクト主管研究員

細田祐司

4. サービスロボット enon への取り組み

(株)富士通研究所自律システム研究部長

森田俊彦

5. ロボット教育を通じて、人とロボットの共存を
考える

ヴイストン株式会社代表取締役

大和信夫

6. ロボット開発における女性の役割

(株)ココロ取締役営業部長

三田武志



4月10日 ラウンドテーブルメンバー(於:大阪市公館)



世界ものづくりサミット

<ラウンドテーブル開催結果概要>

■世界ものづくりサミットラウンドテーブル

日時：2月10日(火) 8:00～14:00

会場：大阪市公館

参加者：ラウンドテーブルメンバー

西尾章治郎 / 大阪大学副学長、アンドリュー・ワイナー / MORRISON FOERSTER 法律事務所 共同経営者、生駒京子 / (株)プロアシスト 代表取締役、小川哲司 / 大和ハウス工業(株) 代表取締役副社長、門脇英晴 / (株)日本総合研究所 特別顧問、更家悠介 / サラヤ(株) 代表取締役社長、貫井 孝 / シャープ(株) 生産技術開発推進本部部長執行役員、野村正朗 / (株)りそな銀行 副会長、梁瀬行雄 / オリックス(株) 取締役兼代表執行役社長・グループCOO、鷲田清一 / 大阪大学総長、平松邦夫 / 大阪市長

アドバイザー：

浅田 稔 / 大阪大学大学院工学研究科教授、マリオン・ロバートソン / COLLIERS ABR, INC, 副会長、海野隆雄 / 長谷川香料(株) 取締役専務執行役員

その結果、下記の問題提起のもと、提言文が採択された。

■ OSAKA INITIATIVES 2009

【問題提起】

真の産業競争力とは

- ・企業のみだけでなく産学連携をコアとした協働が必要である。
- ・都市機能を活かしたネットワーク拠点の形成
- ・大阪については、集積を促す魅力を生み出すために産学官が連携し、固有の都市ブランドを醸成し、普及につとめるべきである。
- ・市場志向の産学連携モデルを構築すべきである

【提 言】

“ A B C D E F G ” の有機的な連携による「グローバル・アライアンス」拠点の形成を！

- Academy (大学・研究機関) / Business (企業) / Consumer (生活者市民) / Developer (開発事業者) / Employee (就業者市民) / Finance (金融機関) / Government (行政・自治体) などが緊密で、柔軟な連携を組み、各々の機能をより一層高めることで、新しい市場を創造する。
- そのためには、拠点施設(ハード)の整備や参画者(ソフト)の集積・誘致を進めるだけでなく、有機的連携を促進するための「仕掛け」や「場の設定」といった“橋渡し機能”が必要である。

■大阪大学シンポジウム(詳細は特集)
世界ものづくりサミットの同時開催イベントとして、大阪大学シンポジウムが2月10日に行われた。

本イベントでは、「脳科学・認知科学が切り拓く未来工学—認知脳システム学創成—」について下記のプログラムに従い大阪大学より講演があった。

テーマ：脳科学・認知科学が切り拓く未来工学—認知脳システム学創成—

日時：2月10日(火) 13:00～15:00

会場：堂島リバーフォーラム

発表者：

大阪大学大学院工学研究科教授 石黒 浩

大阪大学大学院医学研究科教授 眞下 節

大阪大学大学院人間科学研究科教授 芦阪満里子

大阪大学大学院医学研究科教授 吉峰俊樹

大阪大学大学院工学研究科教授 浅田 稔

世界ものづくりサミット

<グローバルアライアンスフォーラム開催結果概要>

■世界ものづくりサミットグローバルアライアンスフォーラムが下記のパログラムどおりに開催し、グローバルアライアンスのための必要条件が討論された。

日時：2月10日(火) 15:30～18:30

会場：堂島リバーフォーラム

プログラム：

15:30～ 開会あいさつ

15:40～16:30 第1部グローバルアライアンスのための連携機能について

16:30～18:00 第2部グローバルアライアンスのための拠点整備について

18:00～18:30 第3部大阪大学社会学連携プロジェクト・ロボット演劇「働く私」



第1部 グローバルアライアンスのための連携機能について

講演：グローバルアライアンスイニシアティブ構想
～大阪発の産学連携拠点の創り方

(株)日本総合研究所理事 佐久田昌治

関連討議：

大阪大学副学長 西尾章治郎

大和ハウス工業(株)総合技術研究所副所長 吉村 守

三菱重工業(株)神戸造船所技師長 長島 是

概要

講演した佐久田昌治氏は、ドイツのレーザー産業発展を支えた産学官連携、フランス・グルノーブル地域クラスターの快進撃を支える産学連携のシステムを事例として取り上げ、世界のトップを維持するための“リベンジ”の構造を検証。リベンジのために、A(Academy、大学および研究・教育機関) B(B-business、企業・起業家) C(Consumer、生活者市民) D(Developer、開発事業者) E(Employee、

就業者市民) F(Finance、金融機関) G(Government、国・自治体)が連結したもののづくりを提案。そのために、大阪にある知的研究機関のポテンシャルと中小企業・大企業のポテンシャルを活かしながら、A～Eを有機的に組み合わせる「場」の必要性を強調した。

第2部 グローバルアライアンスのための拠点整備について

講演：世界の中の大阪

オリックス(株)取締役兼代表執行役社長・
グループCOO 梁瀬行雄

パネルディスカッション：

(財)関西社会経済研究所客員主任研究員跡田
直澄 / オリックス不動産(株)表取締役会長西
名弘明 / MORRISON FOERSTER 法律事務所
共同経営者アンドリュー・ワイナー / COLLIERS
ABR, INC. 副会長マリヨン・ロバートソン





概要

2008年世界ビジネス都市度ランキングで大阪は総合で19位、アジアで総合5位だが、首都圏以外の都市では世界で6位、アジアで2位であり、誇りを持って自己主張すべきである。また、京都、神戸を含めた「グレーター大阪」として、特にアジアを意識した情報発信をしていくことが新たなビジネスを育むと指摘。大阪ブランドとして、例えば山・川・海の自然環境、1400年におよぶ歴史文化遺産、3つの空港を有する交通インフラの充実などを挙げ、それらを活かすべきであるとした。

第3部 大阪大学社会学連携プロジェクトロボット演劇「働く私」

先進的な試みとして、わが国で初めての試みであるロボット演劇が開催された。

脚本・演出：平田オリザ

演出補：岩井秀人

テクニカルアドバイザー：石黒 浩

ロボット側監督：黒木一成

真山祐治役：古屋隆太

真山郁恵役：井上三奈子

タケオ役・モモコ役：三菱重工業製「wakamaru」

協力：(有)アゴラ企画

(株)イーガー

三菱重工業(株)





4月9日 交流会（於 大大阪大学中之島センター）



JST ERATO 浅田共創知能システムプロジェクト
大阪大学大学院工学研究科浅田研究室

世界ものづくりサミット

<展示ビジネスマッチング開催結果概要>

■世界ものづくりサミット展示ビジネスマッチング

同時開催事業として展示会が開かれた。

展示ビジネスマッチングは、研究機関が最先端のものづくり技術を紹介することを目的に開催。15社・団体が13小間の規模で出展した。

出展企業

大阪大学（浅田研究室、小林研究室） 大和ハウス工業（株） サラヤ（株）（株）イーガー、富士通（株） 富士通フロンテック（株）（株）富士通研究所、（株）プロアシスト、山本化学工業（株） ヤマイチテクノス（株） ヴイストン（株） NPO 法人エコデザインネットワーク、エコ・プロダクツデザインコンペ



大和ハウス工業(株)



サラヤ(株)



(株)プロアシスト



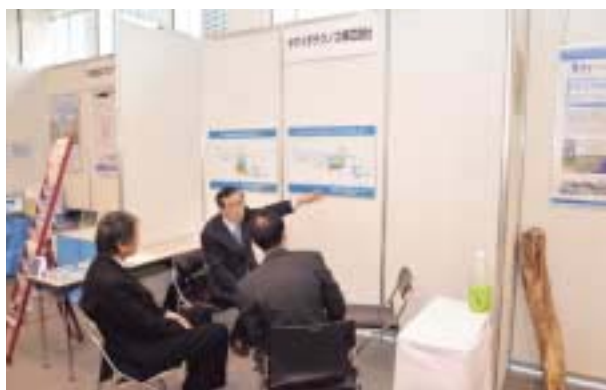
(株)イーガー



富士通(株)
富士通フロンテック(株)
(株)富士通研究所



山本化学工業(株)



ヤマイテクノス(株)



Geiston(株)



NPO法人エコデザインネットワーク



エコ・プロダクツデザインコンペ

ものづくりサミット提言 「市民と連携、橋渡し必要」

経営者や大学関係者が集まり、ものづくりのあり方について議論する「世界ものづくりサミット」(世界ものづくりサミット実行委員会主催、読売新聞大阪支社など後援)は10日、産官学と市民が連携するには「橋渡し機能」が必要だとする提言をまとめ、2日間の会期を終えた。

サミットは大阪市内で開かれ、平松邦夫・大阪市長や鷲田清一・大阪大学長らが議論に参加した。関係機関が連携を深めるためには、拠点整備やソフトの集積・誘致だけでなく、「仕掛け」や「場の設定」などが欠かせないと結論付けた。

(読売新聞2/11・朝刊)

大阪でサミット モノづくり連携拠点を

大阪市や大阪大学などで構成する世界ものづくりサミット実行委員会(西尾章治郎座長=大阪大学副学長)は10日、大阪市公館で「世界ものづくりサミット・ラウンドテーブル」を開いた。平松邦夫市長、小川哲司大和ハウス工業副社長、貫井孝シャープ執行委員、更家悠介サハラ社長ら計12人が参加。大阪の産業が国際競争力を持つには産学連携を軸にした協働が必要とするOSA-KA INITIATIVES 2009を提言した。

冒頭で平松市長が「こういった厳しい状況の中で新しいモノづくりにいかに挑戦するかが課題だ」と指摘。大学や企業、市民などが緊密な関係を組み、「グローバル・アライアンス」拠点を形成し、

新しい市場を創造するとしている。

(日経新聞2/11朝刊)

梅田北ヤード 産官学連携を 米不動産会社副会長



このほど大阪市で開かれた「世界ものづくりサミット」(世界ものづくりサミット実行委員会主催、読売新聞社大阪本社など後援)の会場で、米不動産会社、コリアーズ・エービーアール(本社・ニューヨーク)副会長で、オリックス社長室特別顧問のマリオン・ロバートソン氏=写真=に、JR大阪駅北側で開発中の梅田北ヤードについて聞いた。(戸田博子)

——世界同時不況の影響は。

「世界的に不動産は大変だが、4～5年続くわけではない。(2012～13年と)当初より遅れることになった街開きは、テナント誘致の面でちょうど良いタイミングになるのではないかな」

——どんな機能が必要か。

「世界、アジアの大学を1フロアずつ集めた国際的なキャンパスのビルなど、日本の産官学と連携できる仕組みを作るべきだ」

——課題は何か

「北ヤードは関西のへそ。失敗すれば大阪は二度と浮き上がれないが、大阪の中でテナントを取り合うのではなく、外から呼び込まないと駄目だ。もっと創造力がかきたてられる『絵』を描く必要がある」

(読売新聞2/12・朝刊)

各社報道